

平成19年度南東北連合 学術研究会

「転倒リスク」

～ 多職種の視点違い ～

医療法人 三成会

南東北春日リハビリテーション病院

リハビリテーション科 作業療法士

遠藤 友美

小嶋 健太

相楽 哲

1. はじめに

- ・ 従来、看護師とリハビリで別々の評価用紙を用いて転倒リスクの評価を行っていた。

病棟 看護師



転倒・転落アセスメント
スコアシート

リハビリ



転倒リスク確認表

1. はじめに

- ・ その際、評価に**偏り**があることが多く、情報伝達が困難な状況であった。

病棟 看護師

転びそう！



転倒・転落アセスメント
スコアシート

危険度: 5

偏り

リハビリ

歩けそう！

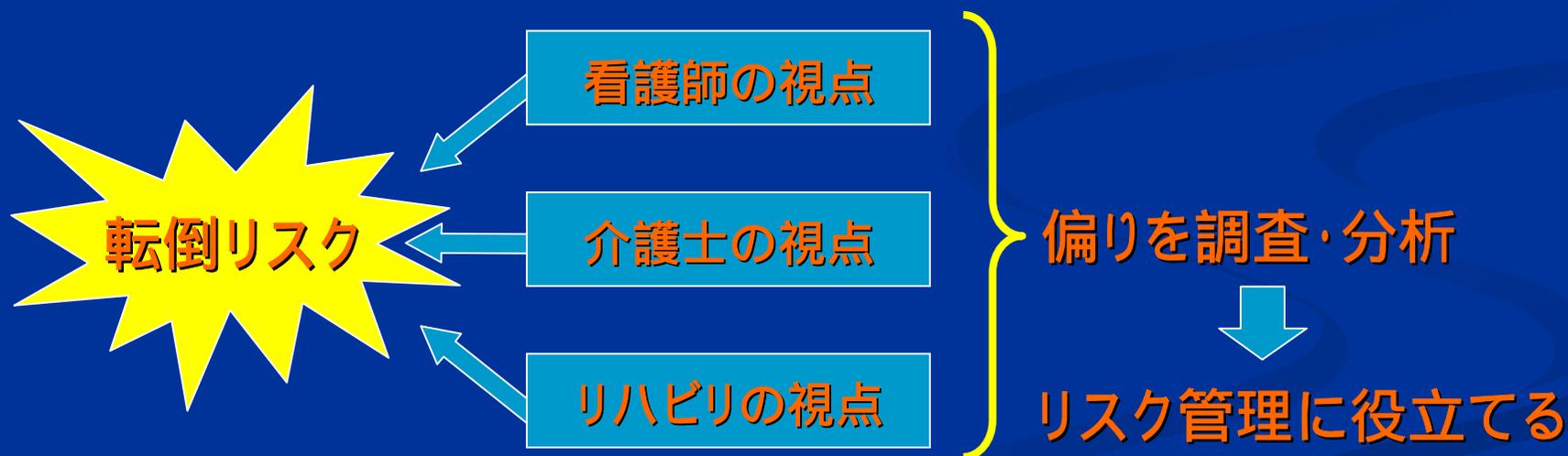


転倒リスク確認表

危険度: 4

2. 目的

リハスタッフや他スタッフは、どの様な視点を持って転倒リスクを捉え、対応しているのか、多職種における視点の偏りを調査・分析し、**リスク管理**に役立てる。



3. 方法

(1) アンケートの実施

【方法】：転倒リスクの高い**ベッド 車椅子への移乗動作ビデオ**を見て、転倒リスクを評価してもらう。

- ・転倒リスクを**自由記載で5項目**列挙してもらう。
- ・転倒の**危険度を5段階**で評価してもらう。

【対象疾患】：**脳卒中片麻痺患者様**

【対象者】：回復期病棟**看護師17名**，**介護士13名**，**リハビリ23名**の合計53名に実施

(2) アンケート内容の分析

- ・経験年数，危険度，評価内容をICFで分類する。

4. 分析結果

(1) 経験年数・危険度

数値は平均値

統計上有意差あり
P < 0.01

経験年数(年)	職種	危険度
15.9	看護師	4.0
5.6	介護士	3.8
3.3	リハビリ	3.6

統計上
有意差なし

経験豊富！

危険度高い！



記載項目数の分析...

4. 分析結果

(2) 危険度・項目数

数値は平均値

危険度	職種	項目数
4.0	看護師	4.4
3.8	介護士	4.5
3.6	リハビリ	4.7

統計上有意差なし

統計上有意差なし

危険度高い！

項目数多い！？



更にICFで分析...

4. 分析結果 (ICF全体の偏り)

(3) 記載内容 (ICF) の偏り

・統計上の有意差・・・あり

独立多標本, 分類尺度

分割表分析 $p < 0.01$

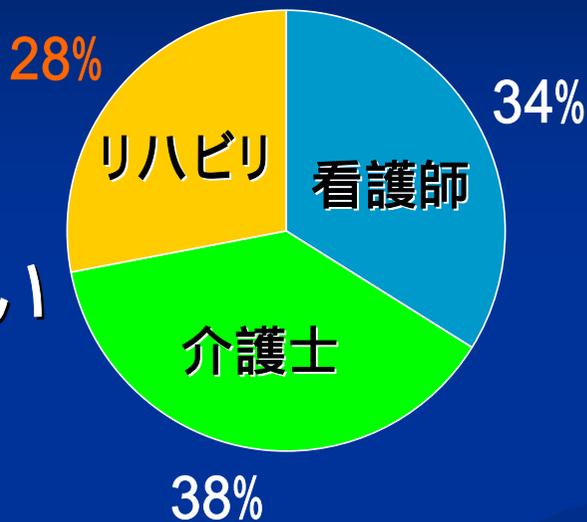
・職種別偏り

数値は記載個数

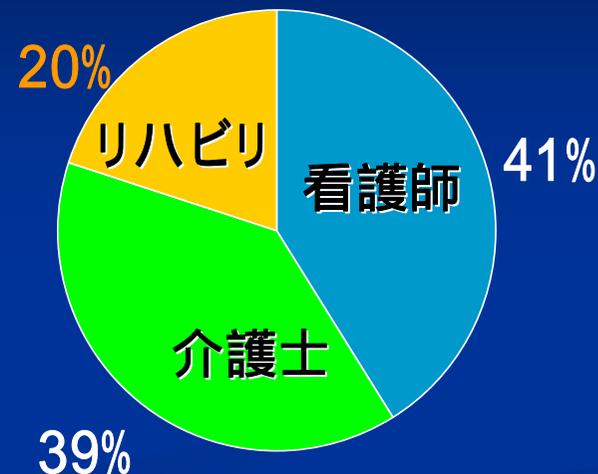
職 種	活動参加	環境因子	心身機能 構 造	個人因子	健康状態	合計
看護師(17名)	44	29	2	0	0	75
介護士(13名)	37	21	1	0	0	59
リハビリ(23名)	48	19	40	1	0	108

4. 分析結果 (ICF個別での偏り)

活動と参加の占有比率



環境因子の占有比率



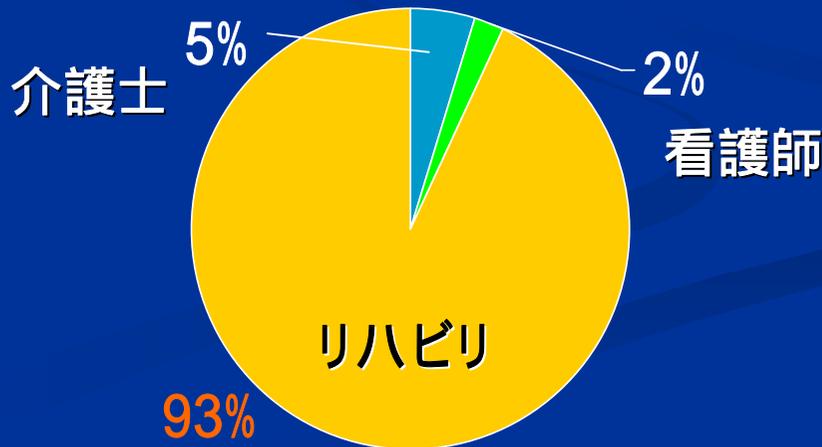
看護師
介護士

が多い

リハビリ

が多い

心身機能構造の占有比率



5. 考察

職種別危険度の偏りについて

危険度

数値は平均値

職 種	危険度
看護師	4.0
介護士	3.8
リハビリ	3.6

病棟での
リスク管理の
中心的役割

訓練で
能力の限界を
見ている

危険度を高く
とらえる傾向

病棟での視点が
少なく危険度を低く
とらえる傾向

5. 考察

ICF分類の偏りについて

職 種	活動参加	環境因子	心身機能構造	個人因子	健康状態
看護師(17名)	44	29	2	0	0
介護士(13名)	37	21	1	0	0
リハビリ(23名)	48	19	40	1	0

活動・環境
に集中！

病棟生活に密着した業務

生活場面に注目

活動・環境への偏り

5. 考察

ICF分類の偏りについて

職 種	活動参加	環境因子	心身機能構造	個人因子	健康状態
看護師(17名)	44	29	2	0	0
介護士(13名)	37	21	1	0	0
リハビリ(23名)	48	19	40	1	0

活動・環境
に集中!

環境因子が
他職より少ない!

心身機能・構造が
他職より多い!

病棟生活に密着した業務

訓練場面に密着した業務

生活場面に注目

機能面に注目

活動・環境への偏り

活動・機能への偏り

5. 考察

ICF分類の偏りについて

職 種	活動参加	環境因子	心身機能構造	個人因子	健康状態
看護師(17名)	44	29	2	0	0
介護士(13名)	37	21	1	0	0
リハビリ(23名)	48	19	40	1	0

活動・環境
に集中!

環境因子が
他職より少ない!

心身機能・構造が
他職より多い!

病棟生活に密着した業務

訓練場面に密着した業務

生活場面に注目

機能面に注目

活動・環境への偏り

目的・かかわり
職の専門性

活動・機能への偏り

6. まとめ

各職種の特徴

看護師：活動面より**安静面**を優先・**管理的業務**

介護士：環境・**現状**・病棟での**生活面**を優先

リハビリ：病棟生活面をあまり見れていない・**機能面**を優先

看護師： } **機能面**でも評価
介護士： }

リハビリ：病棟**生活**への配慮

転倒リスクの申し送り(各職種の特徴を活かして)

リハビリ 看護師・介護士：**機能面**を分かり易く

看護師・介護士 リハビリ：**活動・環境面**のプログラム化

更に、転倒リスク評価用紙の見直しの検討を行う